

つ洗剤が必要であり、その評価の基準を確立する事が大切である。この条件を逐次、明らかにするため、漂白、制菌効果を有効塩素量と平行して検討した。また、尿が消費する有効塩素量とそのため制菌力低下についても検討した。

2. 漂白効果と有効塩素の消費は、精練綿布（反射率 $62 \pm 2\%$ ）を供試液 2 剤に浴比（試料/液量）1/5, 1/10, 1/20, 1/30, 1/40にかえ、経過時間に従い布を引き上げ残液をとり漂白効果と有効塩素量を調べた。引上げ後の浴比も常に一定とした。なお経過時間により制菌力の状態も調べた。有効塩素の定量は沃素法、漂白効果は供試液に試布を浸漬・水洗・乾燥後、光電管色沢計で反射率を測定した。制菌効果は供試菌 *Br. Ammoniagenes*, KTC 尿素グイオン培地により AATCC 法に準拠した。

3. 有効塩素は浴比いずれの場合も経時的には、布浸漬後 0.5 時間内に急速に消費され、又漂白効果も消費量と同じ傾向である。同一白色度に漂白される迄の有効塩素消費は浴比いずれでも等しいが、浴比 1/10 の場合は早く限界に達し、浴比 1/20, 1/30, 1/40 は各々多い程白色度は増大する。粉末、液状洗剤は有塩 0.1% までは制菌効果がある。粉末は塩素が逐次補充されるという特色で長時間有効である。尿混入時の塩素消費は大きく、洗剤の評価、洗法については、この点の配慮が必要である。

B-18 おむつ洗剤洗たくの要因について

福岡女大家政 平松 園江
九州学園福岡女短大 ○山本マチ子
福岡女学院短大 上村 元子

1. おむつを清潔で白く、柔かく保つには、よいおむ